

合同教育研究会議（4月8日開催）議事概要

1 開催日時

令和2年4月8日（水）13:00～13:48

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、狩野副学長兼研究・地域連携本部長、堀江副学長兼事務局長、猪股教育支援本部長、似鳥学生支援本部長、橋本企画本部長、劉国際教育研究部長、福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、
亀田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、菊池盛岡短期大学部長、
松田宮古短期大学部長、菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）

（欠席）長谷川委員（学外委員：東北大学未来科学技術共同研究センター長）

（事務局）鈴木事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、鎌田学生支援室長、
藤澤研究・地域連携室長、藤村企画室長、高橋宮古事務局長、八木主幹、
鈴木主幹、正部家主幹、岩渕主事

4 会議の概要

会議に先立ち、新体制の出席者の紹介及び会議概要の説明を行った。

議事録確認

前回会議3月26日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

審議事項

なし

協議事項

なし

報告事項（口頭報告）

（1）科学研究費助成事業研究種目別採択状況（資料No.1）

狩野本部長から資料に基づき、令和2年度の科学研究費助成事業研究種目別採択状況について報告があった。

委員から、金額のベースではどう推移しているかとの質疑があり、これに対し、具体的な内容は今回の会議で報告するとの回答があった。

鈴木学長から、まず、新規申請を増やし、その後、採択率を伸ばしていこうと思っている。採択における審査では、申請書の書き方の与える印象が大きく、最初に結論を書いて、そのあとに分かりやすく書いていくことがコツである旨を、学部長から伝えるようお願いするとの発言があった。

(2) 令和2年度オープンキャンパス開催方針（資料No.2）

橋本本部長から資料に基づき、新型コロナウイルス感染拡大の収束を前提とした令和2年度のオープンキャンパスの開催方針について報告があった。

委員から、秋のオープンキャンパスについて、昨年度は入試相談員よりも参加者が少なかったため、オープンキャンパスに係る会議で、開催の有無や対応の日時を含めて検討いただきたいとの要望があり、これに対し、橋本本部長からオープンキャンパス連絡調整会議で検討していきたいとの回答があった。

鈴木学長から、新型コロナウイルスの件もあるので、オープンキャンパスを開催できない場合でも、例えば、入試相談をウェブページに設け、知りたいことを質問できる状況を作るなど何らかの対応を考えた方がよいとの発言があった。

(3) 第三期中期計画期間における収支ギャップへの対応状況について（資料No.3）

鈴木事務局次長から資料に基づき、第三期中期計画期間における収支ギャップを解消する（4項目の）3月末の取組状況について報告があった。

鈴木学長から、収支ギャップの対応と併せ、今年度は、前回の人事委員会で話のあった大学と教員個人の仕事の棲み分けを図っていきたいとの発言があった。

報告事項（資料報告）

(1) 令和2年度入学者の状況について（資料No.4）

その他

藤村室長から、新型コロナウイルスへの対応として、本部長会議及び教育研究会議の当面の開催について、4月8日（水）に開催した本部長会議において提起したところ、再検討することとされた旨、報告があった。

委員から、学生の面前でのマスクの着用と、4月20日からは緊急事態宣言の出された7都道府県から来る学生もいるので、緊張感を持つよう他の教員に伝えることに併せ、学生に、健康診断とガイダンス後の休講状態を利用して小旅行や県外の自宅への一時帰省することはやめるよう指導してほしいとの要望があった。

これに対し、委員から、学生に指示する場合は明確な根拠が必要だが、学生の旅行や帰省の制限は大学の方針として理解してよいか、との質疑があり、大学の方針に依拠しているものの、具体的な内容は個人の見解であるとの回答があった。

鈴木学長から、危機管理対策本部会議において、開講を4月20日に延期した趣旨に学生の旅行や帰省の制限は含まれるものだが、可能な範囲でメッセージを出すとの発言があった。

藤村室長から、大学基準協会が発行した冊子「じゅあNo.64」を机上に配布している旨説明があった。